



No. 95

人口の動き

総人口	10,474人
男	5,171人
女	5,303人
世帯数	2,489戸
転入	31人
転出	17人
(12月末住民登録人口より)	

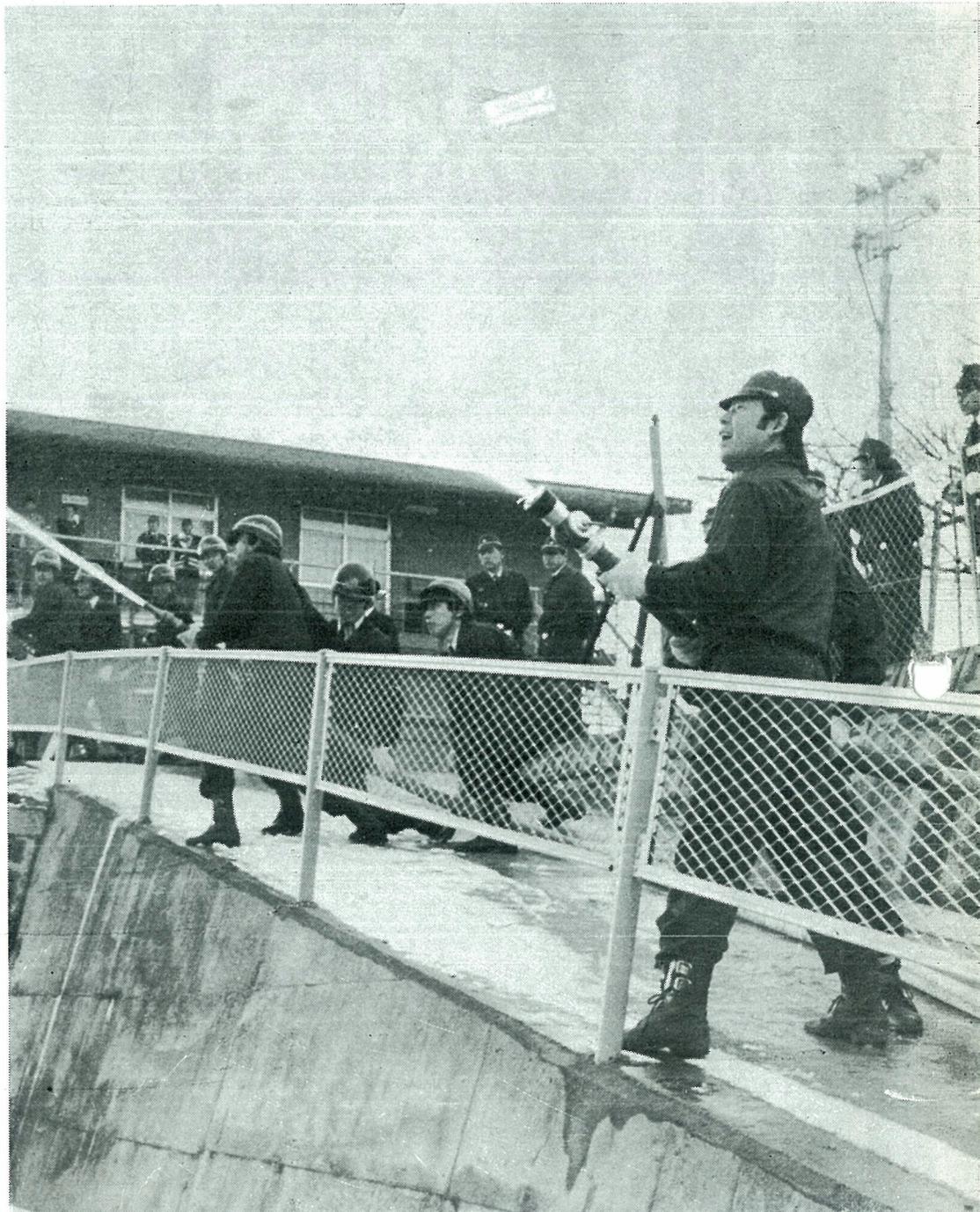
発行 / 岐阜県川辺町 ■ 編集 / 川辺町役場企画室 ■ 印刷 / 中部印刷

勇壮に  
出初式

「町の守りは引き  
受けた！」

消防服に身を固めた  
団員は飛騨川に向  
けて一斉放水、火災  
予防にかける意気込  
みを見せました。

(川辺漕艇場で  
＝関連記事⑧⑨面に)



火の用心、しっかり守って楽しい暮らし

# 盛大に記念行事

## 合併20周年 全町あげて祝う 上水道通水

記念式典で式辞を述べる町長川辺小講堂で



### 祝賀飛行が彩り

昨年十二月十二日、町合併二十周年及び長年宿願の上水道通水を祝う記念式典が、多数の町内外関係者や来賓を招いて、川辺小講堂で盛大に挙行されました。当日は、山楠配水池における上水道通水の神事とテープカットで記念行事がスタート。あわせて、宝さがしや商工まつり、もちまきなどの協賛行事も行われ、町民多数の参加のもと祝賀ムードを一層盛り上げ、盛況のうちに幕を閉じました。

新生「川辺町」が誕生してから二十年、町民一丸となつての努力が、川辺町をここまで発展させてきた原動力となつているところから、それを祝う町民一人ひとりに

とっても、非常に意義深い一日となりました。

この日は、前日と打って変わった快晴で、絶好の祝賀日和。

上水道通水式は、午前九時から

山楠配水池に係者ら約五十人を招いて行われました。神事後、町長と県水道事業課長が、テープにはさみを入れ、念願の上水道通水を祝いました。

九時三十五分には、中日新聞社ヘリが飛来しメッセージを投下、川辺町上空を祝賀飛行し、式典に彩りを添えました。ちょうど同配水池付近は、宝さがしのために押し寄せた人たちでいっぱい、

これらの人たちも、しばし立ち止まって「空からの祝福」に見入っていました。

上水道事業は、昭和六十年度の計画給水人口目標を一万三千四百人とし、計画一人一日最大給水量四百五十リットル、計画一日最大給水量六千三十立方リットル、県営木曾川右岸用水から一日最大六千三十立方リットルを受水しようとするものです。

中川辺、西栃井地区では、すでに十二月一日から一部給水が開始されており、今後さらに、五十三年三月の全面給水に向けて工事が進められます。

### スライドで「町の花」を紹介

十時からは、川辺小講堂において、近隣町村長ら約四百人の関係者や来賓を招いて、記念式典が行われました。

町長式辞、町議会議長あいさつ水道特別委員長による水道事業経過報告に続いて、長年町発展のために尽力された二十八人の功績をたたえて、これらの人たちに町長から表彰状が手渡されました。その後、先ごろ町の花に決まったさ

つきを、町の歴史を織り込んだナレーションとともに、スライドで五分間にわたって紹介、式典を終えました。

町では、さつきの苗を、近く全世界に配ることを計画、「一家一はち運動」を展開し、町全体で自然を愛する心を育てていこうと考えています。

式典が終わると、祝賀の舞台は川辺小校庭へと移り、もちまきにつめかけた二千人を超す人たちが校庭は足の踏み場もない程。正午のサイレンを合図に八十ウスのモチがいっせいにまかれ、祝賀ムードは最高潮に達しました。

このほか、各所で多彩な行事が催され、路上にはこれらの会場を回る人たちの姿がめだちました。特に、中央公民館で行われた芸能大会は満員の盛況ぶり、席がなくなつたままで見ている人も目につきました。また、同じ会場で開かれた不用品即売会の人気も上々で、午前中にはほとんどの品物が売れてしまい、午後は係の人たちも手持ちぶさたの様子でした。

商工会館には、さつきをはじめ多数の盆栽が並べられ、愛好者の目を楽ませていました。

中部中体育館では、毎年恒例の文化祭が、記念式典に合わせて催され、生花や絵画、書道などの出品物に、訪れた人たちが見入っていました。中でも、昔の川辺町の写真や絵画が人気をよび、多数の人の視線を集めていました。

# 自治功労者ら表彰

## 故 渡辺諫司氏に勲六等

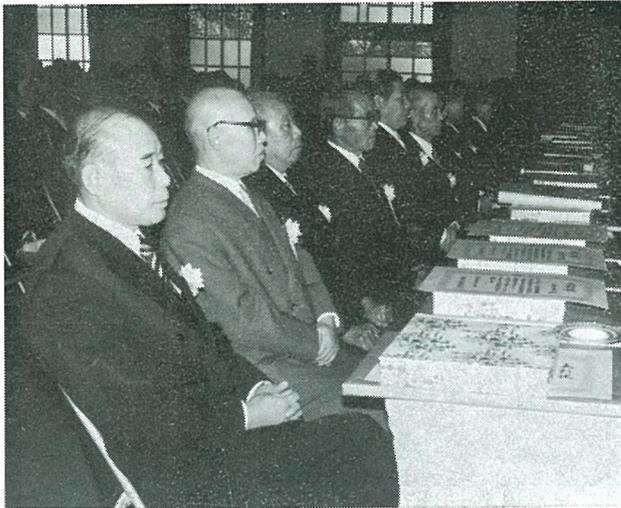
記念式典の席上で、町政発展のために多大な貢献をされた人たちに對して表彰状を授与、その功績をたたえました。

この表彰は、川辺町が合併二十周年を迎えるにあたり、それを記念して新たに制定された「町表彰規程」に基づき行われたもので、表彰を受けたのは、大脇壽重さん

ら二十八人。

功労内容は、地方自治功労、納税功労、社会福祉功労など七項目に分けられており、それぞれの功績に對して、これら二十八人の表彰が行われました。

町長から一人ひとり表彰状と記念品を手渡された功労者の皆さんは、会場から送られる盛んな拍手を浴びながら、長



表彰を受けた功労者の皆さん

年の努力が報いられた——と感無量の面持ちでした。

また、長年地方自治の育成と発展に寄与され、著しい功績をのこして昨年十一月十三日に亡くなられた前川辺町議会議長故渡辺諫司氏に勲六等が叙せられる旨の発令があり、表彰に先立って、勲記と勲章が県知事(代理)から伝達され、故人の長男良規さんがこれを受けられました。

なお、表彰された二十八人の氏名



県知事代理より勲章の伝達を受ける  
故渡辺諫司氏の長男良規さん

と、主な功労概要は次のとおりです。(順不同、敬称略)

### 【地方自治功労】

- ▽大脇壽重(比久見) || 上米田村長をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。
- ▽佐伯茂兵衛(上川辺) || 下麻生町長をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。
- ▽山田 鍬三(福 島) || 上米田村助役をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。
- ▽丹羽 邦平(下麻生) || 下麻生町長をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。
- ▽若井 重三(中川辺) || 町議會議員をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。
- ▽佐伯 勝重(下麻生) || 下麻生町長をはじめ公職を歴任され、地方自治の振興発展に寄与された。

方自治の振興発展に寄与された。

### 【納税功労】

- ▽青田 篤長(中川辺) || 納税思想の普及及び納税成績の向上に尽くされた。
- ▽白村辰四郎(石 神) ||
- ▽加藤 寛明(中川辺) ||
- ▽児島 讓保(比久見) || 上米田

指導員として、体育の振興に尽力された。

### 【保健衛生功労】

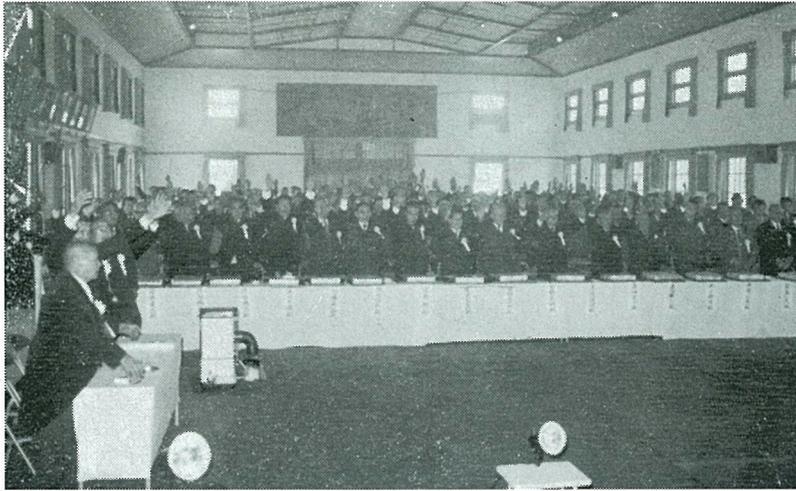
- ▽西村 恵弘(中川辺) || 医療事業の推進に尽力され、公衆衛生の普及と住民の健康福祉に貢献された。
- ▽武市 龍男(上川辺) ||
- ▽関 憲一(中川辺) ||
- ▽加藤 英一(中川辺) ||
- ▽田原 麟也(中川辺) ||
- ▽佐伯 専一(下吉田) || (上米田) 村職員として職務に精励し、公共のために尽くされた。
- ▽鈴木 金彌(中川辺) || 町職員として職務に精励し、公共のために尽くされた。
- ▽金沢 春富(上川辺) ||

保育園長として、その経営に尽力し、児童福祉に貢献された。

### 【教育功労】

- ▽桑畑 宮一(上川辺) || 民生児童委員をはじめ公職を歴任され、社会福祉に貢献された。
- ▽渡辺 鑽三(中川辺) || 人権擁護委員をはじめ公職を歴任され、社会福祉に貢献された。
- ▽井戸 幹男(鹿 塩) || 民生児童委員及び保護司として、社会福祉に貢献された。
- ▽平岡 公平(石 神) || 町教育委員をはじめ公職を歴任され、教育の振興に尽力された。
- ▽前島 茂(下麻生) || 町体育指導員として、体育の振興に尽力された。

▶ 合併二十周年と上水道通水を祝って  
万歳三唱—川辺小講堂で



合併二十周年と上水道通水を祝った十二月十二日。この日を有意義な一日にしようと商工会や農協など各種団体も協力、多彩な催しを行い、終日たくさんの人出でにぎわいました。この模様をスナップ写真で紙上に再現、改めて当日を振り返ってみました。

# 多彩な催し にぎわう人出

12. 12

カメラルポ

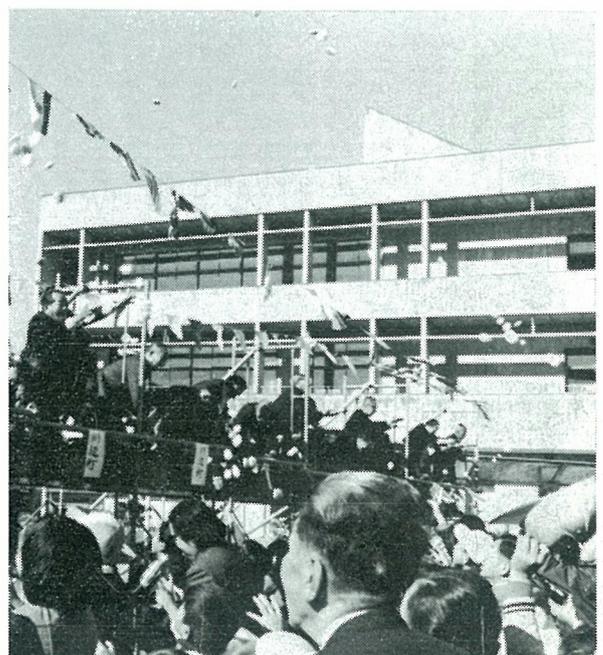


▲ 農協広場で開催された農機具展示会

▶ 山楠配水池付近は、宝さかしに押し寄せた人たちでいっぱい



▶ 町民念願の上水道通水。町長と県水道事業課長がテープカット—山楠配水池で



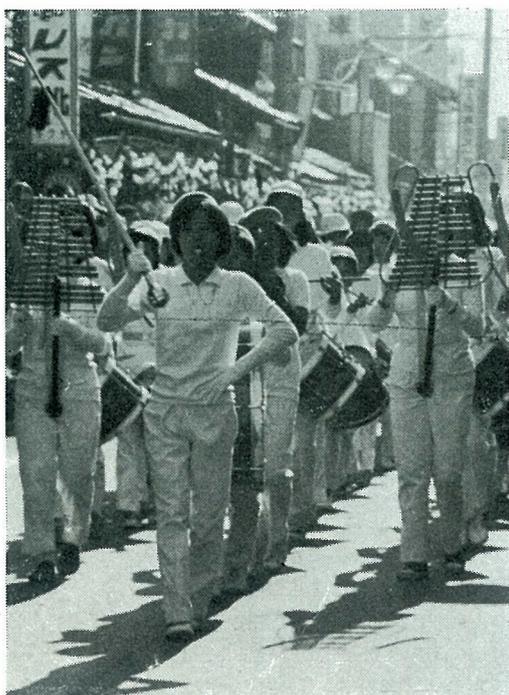
▲ 2,000人を超す人たちでにぎわったモチまき—川辺小校庭で



▲ 愛好者の目を楽しませてくれた盆栽展示会＝商工会館で



▲ 午前中にほとんど商品売切れの不用品交換会＝中央公民館で



▶ 祝賀パレード  
川辺小鼓笛隊の児童たちが中川辺市街地を



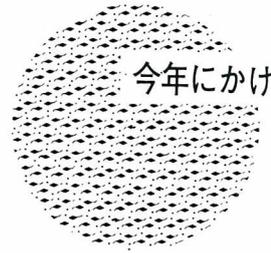
▶ 十二月十一、十二日の二日間にわたって開かれた恒例の文化祭＝中部中体育館で



▲ 明治学級の生徒さんたちが町の皆さんに茶の接待＝中央公民館で



▶ 満員の盛況で好評のうちに終わった芸能大会＝中央公民館で



今年にかける

われら

〽〽 巳年 〽〽

新しい年、昭和五十二年が明けました。皆さんも「今年はこのことを」という希望や計画を一人ひとり持ってみえることと思います。特に、今年のエトである「巳年」の方たちの意欲は格別でしょう。そこで、あらゆる分野で活躍している巳年の方たちに登場してもらい、近況や今年にかける抱負などを語ってもらいました。

### もうそろそろ結婚も……

上米田小教員  
平岩恵子さん



子供たちの教育に意欲的に取り組む平岩恵子さん

「ハイ、まっすぐ並んで」。準備体操始め」張り切った先生の声が、校庭に響きます。

この先生は、上米田小学校の平岩恵子さん。現在、二年生の児童たちの担任として、充実した毎日を送って見えます。やんちゃ盛りの子供たちを、先生になってから今年で四年目、そろそろ仕事ぶりも板についてきたようです。

昨年四月に、白川の黒川小学校から同校へ赴任、子供たちの間では「若くて美人の先生」と、その評判も上々、人気のマトになっています。しかし、苦勞もそれなりに多いようで、「以前よりやせた」とのこと。

昨年は、念願の車の免許を取ることができ、三カ月目にやっと一人で太田まで運転して行けるようになった——とうれしそう。読書が趣味で、最近よく読んでいる本は、横溝正史と石川達三。「でも時間がなくて……」と残念そうなおぶりでした。

休日には、劇や映画鑑賞あるいは友だちと一緒にショッピングに出かけたりして、ゆっくり羽根をのぼすとのことですが、いったん仕事となると、その意欲には並々ならぬものが感じられ、そのため同僚職員からの信頼も大きいようです。

「先生になってよかったと思います。小さい時からの夢でしたから。まだとうぶん続けていくつもりですけど、そろそろ結婚も考えなくちゃあ……」と、女性らしい一面もろかかえました。

### グループ活動に生きがい

婦人会副会長  
馬場和子さん

とにかくバイタリティーあふれる奥さんです。

比久見の馬場和子さんは、一家の主婦として

家事を切り盛りするかわら

ら、婦人会の副会長として

その運営に尽力、民謡教室

御詠歌会、詩吟クラブにも

会員として出席してみえます。

そのほか馬場さん自ら発起人となって書道クラブを設立、そのリーダーとしても活躍、家では近所の奥さんたちと和

裁任事に精を出すなど、休むヒマもない忙しさです。

特に、昨行われた「町合併二十周年記念式典」前は、民謡の練習や婦人会の人たちとの打合わせで毎晩のように家をあげ、ユマメ



自宅で和裁仕事に余念のない馬場和子さん

に動き回って見えました。人当たりも大変よく、親しみが持てるところから、近くの人たちもしょっちゅう馬場さんの家に集まり、自宅はまるで集会所さながら、世間話のほか、いろいろな相談を持ちかけられることもしばしばで、時には結婚についての相談も。

「子供に手がからなくなってきた主婦が、今後の人生の希望、生きがいを見つけてくれるにはグループ活動が一番。今年はずっと婦人会を盛り立て、講座もどんどん増やしていきたい」と話す言葉にも力が入り、これらの

のグループ活動にかける熱意のほどがうかがえます。「昨年生まれた孫の成長を見守るのも楽しみひとつ」。愛想のいい顔をほころばせて、話してくださいました。

「先生になってよかったと思います。小さい時からの夢でしたから。まだとうぶん続けていくつもりですけど、そろそろ結婚も考えなくちゃあ……」と、女性らしい一面もろかかえました。

# 今もママで畑仕事



健康そのもの……と長瀬形郎さん

## ますます元気 長瀬形郎さん

長瀬さんは、今年二月で八十四歳の誕生日を迎えられます。しかし、とてもそんな高齢とは思えない程元気なおじいさんで、今も天気のいい日には、近くの畑まで仕事に出かけて行かれるのが日課になっています。

「神経痛が足にきて、思うように動かない」と言われますが、自転車の荷台に大きなカゴを着けて乗ってみえる姿には、そんな様子

をまったく感じる事ができません。

「田植えなどは若いもんにも手伝ってもらうが、畑仕事はワシ一人」と、運動も兼ねて続けてみえます。

耳もまだよく聞こえ、電話などの応待にも不都合はない様子。

「話すことといっても、古い話しかできないが……」と、いろいろなことを聞かせてくださいました。

十八年程前に、胃かいようで胃を三分の二も切除する大手術を受けられました。それ以後は健康そのもので、病氣らしい病氣はし

たことがなく、知り合いの人から「そんなに元気になれるのなら、ワシも胃を切ってもらおうか」とうらやましがられる程。

青年時代には、剣道などからだを鍛えておられ、現在元気に生活してみえる一因が、そんなところにもあるようです。

町内の愛好者で結成している狂

# 今年忙しくなそう

## 製材所に働く 篠田宗直さん

七宗町にある製材所へ勤めるようになってから五年になる篠田宗直さん。「上川辺へ新築工事に出かけている」と勤務先できき、そこへお邪魔をして、さっそく話をうかがいました。

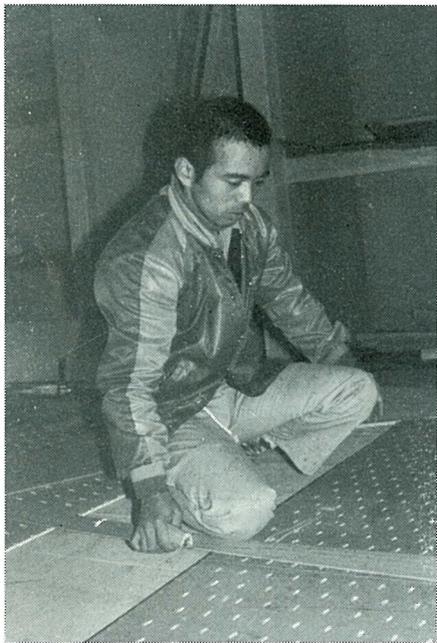
俳クラブ「月洞社」には、古くからメンバーとして名を連ねてみます。「昔もよくやった」と、趣味も多方面にわたっています。

「先のこととはわからんが、今年もママに暮らせさえすればそれで十分……」

年を感じさせない元気で、畑仕事にいそむ長瀬さんです。

インタビューをしている間も、ひとときも手を休めることなく、かなづち片手にあちこち動き回って精力的に仕事に打ち込んでみえました。

子供のころから、手先を使うような細かいことが好きで、学校時代は「工作」や「技術」などが得意科目のひとつ。絵をかくことも好きで、今も時々かいてみえるそうです。



インタビューの間も手を休めることのない篠田宗直さん

しかし、ヒマもないし、納得できるようなものがなかなかかかず「途中で放り出してしまいうこともある」とのこと。

このことからわかるように、篠田さんは、自分が満足できるものでなくてはダメ——と、気にいるまでコツコツとやり抜くタイプの人がらしく、それは仕事ぶりを見てもよくわかりました。

休みには、家でブラブラしていることが多く「マージャンは知っているがやらない。どうしても酒やタバコがつきもので、からだをこわすから」と、若さに似ず、健康面にも気を使ってみえます。

「一日ごとに、仕事の予定は一応決まっていますが、なかなか予定どおりには運ばない」らしく、遅くまで残業をすることが多く、日曜日に働きに出かけられることもしばしば。

口数が少なく、神経質そうなどころから、一見とつきにくい印象を受けますが、話す言葉の端々からは、時折ユーモラスな一面も顔をのぞかせます。

勤務先の製材所の話では「おとなしくて、仕事も大変マジメ。同僚とのつきあいもよく、何も言うことはない」と手放しでほめてみえました。

今年の抱負をきいたところ「何かにつけて忙しくなりそう」と簡単な返事。しかし、そう話す篠田さんの横顔からは、今年にかける意欲がうかがえました。

# 「町の守りは引き受けた」

## 寒風ついて出初式

### 雪中、一斉放水

一月六日午前九時から、中部中グラウンドで恒例の町消防団出初式が、多数の来賓を招いて挙行されました。この日はあいにくの曇り空で時折雪がちらつく悪天候でしたが、一斉放水、分列行進などが寒風をついて行われ、消防団員の意気の高さを示しました。



堂々の分列行進をする町消防団Ⅱ中部中グラウンドで

この出初式は、団員の志気を高め今後一年間の活躍を誓うために毎年行われているものです。

中部中グラウンドには、前夜降った雪がまだとけずに残っており、底冷えのする寒さ。そんな中で、町の治安維持の任務に燃える約二百人の消防団員は、分団長らの号令にキビキビと反応、団結の強さを見せました。

団旗入場、国旗掲揚の後、村上武消防団長が「昨年の消防団の活躍に感謝するとともに今年もなお一層消防精神に燃えて職務を遂行してほしい」と呼びかけました。

関団点検、手帳点検のころから雪がちらつき始め、一斉放水時には一層寒さが身にしみるようになってきました。七台の積載車を運ねて消防団員は艇庫へ移動、エンジンの響きも高らかに、飛騨川に向けて一斉放水、出初式もクライマックスに達し、引き続き団旗を先頭に団員、消防車などが堂々の分列行進を行いました。

### 長沼さんら表彰

また、式上、安八町から町消防団に対して感謝状がおくられました。これは、昨年の集中豪雨の際大きな被害を出した同町に、川辺町消防団が救援に駆けつけ、多大な功績を上げたことに対する感謝の意を表わしたものです。この後町長、来賓から激励の言葉があり出初式を終えました。

一夫(副分団長)、丹羽隆之(団員)、佐伯五生(同)、桑畑康彦(本部長)

▽町長表彰Ⅱ加藤光彦(分団長) 紅谷芳宏(副分団長)、桜井銀一(部長)、千賀政広(同)、馬場均(班長)、杉山茂隆(同)

▽岐阜県知事賞状Ⅱ平岡為之(元団員)、若井靖彦(同)、仙田孝雄(同)、池山幸良(同)

▽加茂県事務所賞状Ⅱ長尾幸行(分団長)、岩井一夫(副分団長)

▽岐阜県消防協会賞状Ⅱ井戸治郎(副団長)、村山恵(同)

▽岐阜県消防協会賞状Ⅱ横田俊光(副分団長)、前島智則(同)

▽加茂郡消防協会賞状Ⅱ赤坂良造(分団長)、佐伯敏之(同)

▽加茂郡消防協会賞状Ⅱ岩井部員) 吉田利幸(副分団長)、長島正彦(班長)、桑畑康彦(本部長)

式上、長年にわたって消防業務に尽力された人々たちに対して表彰状が授与されました。表彰を受けたのは、長沼猛雄さんら次の五十三人。(敬称略)

▽消防庁長官賞状Ⅱ長沼猛雄(元副団長)、中川正剛(元団員)

▽岐阜県知事賞状Ⅱ平岡為之(元団員)、若井靖彦(同)、仙田孝雄(同)、池山幸良(同)

▽加茂県事務所賞状Ⅱ長尾幸行(分団長)、岩井一夫(副分団長)

▽岐阜県消防協会賞状Ⅱ井戸治郎(副団長)、村山恵(同)

▽岐阜県消防協会賞状Ⅱ横田俊光(副分団長)、前島智則(同)

▽加茂郡消防協会賞状Ⅱ赤坂良造(分団長)、佐伯敏之(同)

▽加茂郡消防協会賞状Ⅱ岩井部員) 吉田利幸(副分団長)、長島正彦(班長)、桑畑康彦(本部長)

# 災害などに活躍

## 昨年は安八町へも出動

「若あゆ躍るふるさとの明るい平和守るもの」という歌い出しで始まる「岐阜県消防の歌」。この歌の中に消防団員の心意気をうかがうことができます。

消防活動、防火思想の普及だけではなく、水難、災害などがおきればいち早く現場に駆けつけ、身の危険をかえりみることなく任務を遂行する消防団員の皆さんのおかげで町の治安が保たれているといっても過言ではありません。ここに昨年一年間の消防団の活動状況を紹介、その活躍ぶりを皆さんにお知らせします。

### ▽1・5 町消防団出初式

恒例の町消防団出初式を中部中グラウンドで挙行、式上、羽田武雄さんら六十二人が表彰されました。

### ▽2・22 郡消防連合演習

郡内七カ町村消防団が参加、郡消防協会及び川辺町の主催で町内三カ所において行われました。中部中、長江製陶所、上米田小を火災発生現場に想定、各消防団が実戦さながらのキビキビした動きを見せました。

### ▽4・11 郡消防操法講習会

白川町で開催された講習会には町からも団員三十一人が参加、小

型動力ポンプ操法に関する講習を受けました。

### ▽4・18 町消防団入退団式

消防活動に数々の功績をのこして去っていく人の労をねぎらい、新たに入団する人に期待をかけようと毎年行われているものです。入団は加藤光彦さんら三十人、退団は小森武さんら三十人。

### ▽5・9 第二十回郡消防操法大会

八百津町で行われた同大会に町からも第一分団一部、第一分団二部の両チームが出場、日ごろみがいた技術を競いました。

### ▽7・4 郡消防団幹部講習会

郡消防団幹部百二十人が中部中グラウンドに集まり、規律訓練を行いました。



昨年の操法大会で優勝した第一分団一部AⅡ中部中グラウンドで

▽8・8 町消防団夏期訓練  
百三十三人の団員が参加、中部中グラウンドで行われました。

### ▽9・8 台風災害に出動

17号台風により町内各所で災害が発生、消防団は昼夜の別なく災害復旧に取り組みました。

### ▽9・10-15 水難者捜索

17号台風のもたらした雨で、水かさが増していた飛騨川で水難事故が発生、三百六十人の団員が捜索に当たりました。

### ▽9・19 第五回町消防団ポンプ操法大会

中部中グラウンドで行われた同大会には町消防団十四チームが参加、日ごろの訓練の成果を競い、その結果優勝旗は第一分団一部Aが獲得、準優勝は第一分団二部A、三

### 位は第四分団一部

### ▽9・20 安八町へ出動

県から集中豪雨により大きな被害を出した安八町への出動要請を

受け、町から二十一人の団員が出動し活躍しました。

### ▽11・14 町消防団秋期訓練

七十人の団員が参加、川辺小グラウンドで行われました。

### ▽11・26-12・2 全国一斉火災予防運動

「火災は人災、防ぐはあなた」を統一標語に一週間にわたって実施、町消防団も防火思想の普及に努めました。

▽11・28 郡消防連合演習  
郡消防協会主催で富加町において実施、町から団員二十六人が参加しました。

### ▽12・25-30 年末夜警

各分団ごとに連日徹夜で六日間をわたって実施、各家庭から「安心して眠ることができる」と喜ばれました。

## “火の守り”は家庭から

### 鹿塩婦人防火クラブ 火災予防に一役

各家庭の防火は家事をあずかる主婦の責任——。このような考えから、昭和三十七年四月、鹿塩に婦人防火クラブが誕生、防火思想の普及に一役買っています。

同地区の婦人による消防活動の歴史は古く同クラブ結成前の昭和二十六年からすでに初期消防訓練など着実な活動を続けています。

結成以来同クラブは消防団が行う行事に積極的に参加、訓練を受けています。

また、四十五年一月に発生した火災時には深夜にもかかわらず、消防団員の到着前に現



出初式にも参加、安田ヒサ子隊長を先頭に分列行進する婦人防火クラブ

# まぼろし選挙の一票

## 二月六日に県知事選

岐阜県知事選挙の投票が二月六日に行われます。この選挙は、昨年の県庁汚職事件から心気一転、岐阜県が新たな出発を期すための出直し選挙として非常に重要な意義を持っています。与えられた権利をムダにすることなく、「明日の岐阜県」を任すことのできる人を、一人ひとりがよく考えて選ぶようにしましょう。

### 投票時間は 午後六時まで

今回の選挙も、今までの選挙と同じく、投票時間は午前七時から午後六時までですから、この時間内に所定の投票所へ出かけてください。

### 入場券を お忘れなく

投票日には、お配りした投票所

の入場券を持参してください。もし、なくした場合は、投票所の受付へ申し出てください。

### 字が書けない人 は代理投票を

目や手が不自由で、自分で字が書けない人、または字を知らない人、そういう人は代理投票ができます。投票所で係員に申し出ていただければ、秘密を守って係員が代わって書いてくれます。

### 不在者投票は 前日十七時まで

二月六日の投票日に、旅行や出張などやむをえない理由で投票所へ行けない人は、投票日以前でも役場で投票することができます。手続きは、印かんを持参し、宣誓書に不在の理由などの必要事項を記入するだけです。

なお、この不在者投票は投票日前日の五日まで午前八時半から午後五時まで平日休日を問わず行うことができます。

### 郵便でも不在者 投票ができます

重度の身体障害のため歩行困難な人は、郵便で不在者投票ができます。郵便による不在者投票のできる方は身体障害者手帳に、両足体幹の障害なら一級または二級、心臓、じん臓あるいは呼吸器の障害で一級または三級と記載されている人に限ります。

### 今度の選挙の 有権者

昭和三十二年二月六日までに生まれた満二十歳以上の人です。そ

して昭和五十一年十月十一日以前に転入の届け出をし、引き続き居住している人です。また九月十一日以前に転出した人は抹消されません。なお、九月十二日以降に転出し選挙人名簿に登録されている人でも、県外への転出者は県知事選

## 投票率は八二・三二パーセント

昨年の  
衆院選

### 前回より下回る

戦後初の任期満了選挙となった衆議院議員総選挙は、昨年十二月五日、最高裁判所裁判官国民審査と同時に執行され、川辺町では従来どおり町内八カ所の投票所において朝七時からいっせいに投票が行われました。

前回の同選挙が投票率八六・六三割という好成绩をおさめていることや、当日の空模様などから、好調な出足が期待されましたが、思った程投票率は伸びず、正午でやっと五〇割を超え、最終的には八二・三二割と前回の八六・六三割を約四割下回る結果に終わりました。

#### 〔衆院選開票結果〕

投票総数 五、八七七票  
有効投票 五、七七三票  
無効投票 一〇四票  
有効投票の内訳  
金子 一平 九一〇票  
渡辺 栄一 三、〇九二票  
古屋 亨 三三八票  
楯 兼次郎 九三一票  
加藤 守 五〇二票

〔最高裁判所裁判官国民審査開票結果〕  
投票総数 五、八五六票  
有効投票 五、二九二票  
無効投票 五六四票

全国的に激しい選挙戦が行われた中で、川辺町は比較的静かな選挙区に属していたためとも思われますが、郡内七カ町村でも最低の投票率であったことを考えると、今一度選挙に対する有権者の再認識が望まれるところです。

の選挙権はありません。県内の他市町村へ移転した人名簿登録地の投票区で投票するときは、引き続き県内に居住することを示す住民票の写しか現住地の市町村長の交付する証明書を提示することが必要です。

### RH型血液 マイン

## 胎児に障害のおそれ

### 万一のために「ともしび」会へ

血液型にはA B O式、Rh式、MN式などがあり、医学上特に問題となるのはA B O式とRh式です。

Rhマイナスの人にRhプラスの血液を輸血すると、抗体が生じ次に輸血する場合、Rhプラスの血液では副作用がおこることがあります。また、Rhマイナスの婦人がRhプラスの胎児を妊娠すると、胎児が新生児溶血症おうだんや発育障害をきたすことがあります。

表を見ていただくとおわかりのように、A型でRhマイナスの人は千人に二人、A B型でRhマイナスの人は千人に〇・五人です。手術などで輸血の必要なとき、また母子血液型不適合妊娠による重症おうだん出現時の交換輸血の

必要なきのために、Rhマイナスの血液型者がお互いに助け合うための組織「ともしび会」が結成されており、万一のために加入されることをおすすめします。

なお、詳しいこと及び加入については役場住民課までおたずねください。

計	A B	B	O	A	OA式 OB式
〇・五割 (千人に五人)	〇・〇五割 (千人に〇・五人)	〇・一割 (千人に一人)	〇・一五割 (千人に一・五人)	〇・二割 (千人に二人)	Rhマイナス型発現率

### 老齢年金・通算老齢年金

## 受給権者は現況届を

### 提出は2月15日までに

機関または郵便局を通じて自動的に付いてきます。このため、今後もしも引き続き年金を支払うためには、皆さんの現状を確認しておく必要があります。

この確認は、国民年金の老齢年金(通算老齢年金)の受給権者については、二月十五日までに提出していただく「国民年金受給権者現況届」により行うことになっていきます。

今回この現況届を提出していた人、成人として多くの権利が認められ、同時に義務も課せられますが、国民年金に加入することもそのひとつといえます。

若し人は「老後はまだまだ先のこと、なんとかなるだろう」と考えがちです。しかし、平均寿命は年々伸びており、老人の占める人口割合も増えている一方、家族構成が核家族化してきており、老後の生活を子供に頼ることは難しくなっています。

現況届には、その人の生存を確認するため、戸籍または住民票の記載事項について、町長の証明を

受けることになっていきますので、用紙が届いたら必要事項を記入して町長の証明を受け、切手をはって投かんしてください。

この現況届は、社会保険庁で電子計算組織により処理しますので折り曲げたり、汚したりしないよう特に注意してください。

### 「はたち」になつたら国民年金

私たちは二十歳になったその日から、成人として多くの権利が認められ、同時に義務も課せられますが、国民年金に加入することもそのひとつといえます。

若し人は「老後はまだまだ先のこと、なんとかなるだろう」と考えがちです。しかし、平均寿命は年々伸びており、老人の占める人口割合も増えている一方、家族構成が核家族化してきており、老後の生活を子供に頼ることは難しくなっています。

このようなことから、老後の生活設計は、若いうちから自分で考え、準備しておかなければなりません。

国民年金制度は、農業、漁業、商業などの自営業者、サービス業などの人を加入対象とする老後の所得保障制度です。

二十歳になったら、国民年金に加入して、老後の暮らしをより豊かなものにしましょう。

詳しいことは、役場住民課でおたずねください。

## 街を自然を美しく

吸いがらの投げ捨てはやめましょう。

# Smokin' Clean



日本専売公社

110番

# 多い追突事故

## 雪道はスリップに注意



昨年の事故の大半はこの国道41号線でおきている—中川辺地内

一步家を出れば、そこはもう交通戦争のまっただなか、家の中

で自動車飛び込んで来る今日です。交通問題は、今や日常生活とは切っても切り離せない程、大きな問題となっています。

交通問題は、昭和三十三年の初頭「神風タクシー」の暴走に火がついて以来、年を追って深刻となり、昭和三十六年の秋、一年間の死者が、日清戦争二カ年の戦死者一万三千四百八十八人に匹敵するに至って「交通戦争」とまで呼ばれるようになりました。

川辺町における交通(人身)事故発生状況は、昭和四十五年の発生件数七十、死者三人、重軽傷者百十二人をピークに、その後減少の傾向をたどり、昭和五十年、発生件数五十一件、死者二人、重軽傷者四十二人、昭和五十一年(十二月二十七日現在)、発生件数三十二件、死者〇、重軽傷者四十二人となっています。

昨年発生した交通事故を分析してみると▽川辺町通過車両間の事故十五件▽町民が関係する事故十七件—、さらに▽国道四一号线での事故二十二件▽県町道での事故十件—となり、事故原因を大別すると▽わき見による追突十一件▽前方不注意八件▽交差点での徐行違反三件▽信号無視三件▽幼児、老人の飛び出し三件▽過労二件▽速度違反二件—となっています。

冬の交通事故で一番多いのは、道路の凍結、積雪によりスリップ事故です。

県道路交通法では「積雪または凍結している道路において、二輪以外の自動車を運転するときは、タイヤチェーンを取り付けるなど、すべり止めの措置を講ずること」を義務づけています。

「すべったから仕方がない」ではすまされません。

- ▽事前準備をしっかりと
  - ▽速度はムラのないよう、コンスタントに走る
  - ▽急ブレーキはかえて滑走し、制動距離が伸びるから、エンジンブレーキを併用する
  - ▽急ハンドル、急加速はため、常になめらかに
  - ▽橋の上、やぶ陰、山間地、カーブでは、その手前で必ず徐行する
- 以上のようなことを守り、事故のない明るい一年を送ってください。

### 議会だよ

## 議長に中西氏選出

副は高井信孝氏

第二回臨時議会  
第四回定例会

昨年十二月六日に第二回臨時議会、二十一日から四日間にあわたって第四回定例会が開催されました。審議されたおもな案件は次のとおりで、すべて原案どおり可決承認されました。

部長	三万五千元
班長	
団員	三万円

〔第二回臨時議会〕  
前議会議長の死去に伴い、議長選挙を行った結果、中西鉞郎氏が選出されました。また、副議長には高井信孝氏が選ばれました。

●専決処分の承認  
五十一年度一般会計七百六十万九千円の補正予算の専決処分について、承認を求めました。

〔第四回定例会〕  
●教育長の給料を改正  
五十一年四月にさかのぼって、教育長の給料が月額二十万三千五百円に改められました。

●非常勤消防団員の退職報償金を改正  
非常勤消防団員の、勤務年数に応ずる退職報償金が次のように改められました。

団長	五万円
副団長	四万五千元
分団長	四万円
副分団長	

●五十一年度補正予算  
〔一般会計〕  
歳入歳出にそれぞれ三千二百七十七万を追加し、予算総額を十億三千五百六千円としました。

おもなものは、給与改定による人件費の追加が三百八十七万七千円このほか、県知事選挙に関する費用百三十九万一千円、災害復旧工事請負費一千五百三十一万円などとなっています。

〔特別会計〕  
国保会計では、人件費など一千九百七十七万三千円を追加、予算総額を一億六千三百三十八万円としました。

●五十年度各会計決算認定  
五十年度の一般、国保、農業共済、学校給食共同調理場各会計の歳入歳出決算が認定に付されました。  
このほか「県庁汚職の徹底究明と再発防止対策を求める決議」など三件の動議を採択しました。

# 税の窓

## 節税には最適

### 青色申告 十万円を所得控除

毎日の取引きを帳簿につけ、その帳簿に基づいて正確に所得や税額を申告する方は、所得計算の面などで、いろいろ有利な取扱いが受けられることになっています。これを青色申告制度といえます。

まだ青色申告をしていない方のために、その特典や手続きなどについて説明します。

#### 〔青色申告のできる方〕

不動産所得、事業所得、山林所得がある方です。

不動産所得とは、家や土地などの貸付けによる所得です。事業所得とは、農業、製造業、小売業、サービス業など事業から生じる所得をいいます。これには、医療保健業や著述業も含まれます。山林所得とは、山林の伐採や譲渡による所得をいいます。

#### 〔青色申告の特典〕

主なものとして、次のようなものがあります。

#### ▽青色申告控除

青色申告をしている方は、一律に十万円を所得金額から控除することが出来ます。ただし、「みなし法人課税」を選択したときは、

この控除はできません。

#### ▽青色専従者給与

事業を営んでいる方の妻や十五歳以上の子弟などで、その事業にもっぱら従事している方に支払った給与は、必要経費になります。給与の額は、仕事の内容や従事程度からみて、ふさわしい額であることが必要です。

#### ▽貸倒引当金

売掛金や貸付金の貸倒れに備えて、年末の売掛金や貸付金などの合計額の五・五割（金融業は三・三割）までの金額を、貸倒引当金として必要経費にすることが出来ます。

#### ▽「みなし法人課税」の選択

事業所得者や、事業といえる規模で不動産の貸付けを行っている不動産所得者は、所得から事業主報酬を控除して、残額は法人と同じような課税方法を受ける「みなし法人課税」を選択することが出来ます。

事業主報酬の額は、事業の種類や規模、収益などからみて、ふさわしい額であることが必要です。「税金ほどの程度安くなるか」

例えば、昭和五十一年分の所得金額が、青色申告の特典を受ける前で三百万円、妻に対する専従者給与七十万円、年末の売掛金五十万円、年末のたな卸商品百万円、扶養親族は子供二人——の平均的な店の場合、青色申告をすると所得税はおよそ六万円も安くなります。

また、所得税だけでなく、住民税や事業税も安くなるので、それ

## 税の作文

### 税金で明るい

#### 町づくり

中川辺／矢島育子

税金って何だろう。どうしてはらわなければならないんだろう。初めに思ったのはこの二つでした。せつかく私たちのおとうさん、おかあさんが働いたお金なのに、ひどいなあとも思っ

た。しかしこの文を書くにあたって、父の話を聞いてみると、私たちの納める税金が、どれだけ私たちのためになっているかというところが、よくわかりました。父の話によると、おとなにな

らを含めると、青色申告をしている方の税金は、していない方に比べておよそ十三万円も安くなります。

ただし、この計算例は「みなし法人課税」を選択していないものとして計算したものです。「青色申告の手続き」

今年から青色申告をしようとする方は、三月十五日までに「青色申告承認申請書」を税務署に提出

り社会に出ると、働いて給料をもらう人は、源泉という言葉で納税し、商業の人は所得税という言葉で、利益の何割かを納税するのだそうです。私の家は商業だから、所得税と町民税を納めているわけです。

ところでこのお金、つまり税金はどこに行き、どんなことに使っているのか。私は、たいてい私たちの川辺町の発展、またはいろいろな事故などから守るために、使うのではないかと思う。そうしたら、やはり父もこんなようなことを言っていました。

たとえば、前、私がいた川辺小は、私たちが四年生のころまで、けい光燈がついていませんでした。雨の日など、たいへん暗くて黒板の字がよく見えなかった時がありました。しかし、五、六年になっ

してください。申請書の用紙は税務署に用意してあります。

なお、一月十六日以後に開業した方の申請期限は、開業の日から二カ月以内です。

#### 〔記帳などの相談〕

帳簿のつけ方や決算のしかたなどについてわからないときは、気軽に税務署へご相談ください。また、商工会でも記帳の指導をしています。

た時、天井に電気がついたので、これは私たちにあって、とてもうれしいことでした。

今はけい光燈がついていて、暗い日には明るくなるけれど、小学校の時よりも、精神的には暗いのです。初めて電気がつけられたうれしさは、今でも忘れられません。

このけい光燈をつける費用はどこから出ているのでしょうか。それは税金です。私たちのおとうさんが出しているお金が私たちが川辺町の喜び、生活が豊かになった、ということに戻ってくるのです。

私はこの文を書いて、明るい川辺町を築きあげるために、税金がどれだけ大切かということがよくわかりました。

# 道路の整備に汗

## 上川辺下 月一回お宮の清掃も 老人ク

上川辺神坂地内を通る神坂線道路が、昨年十二月、上川辺下老人クラブ（会長桑畑宮一さん）の皆さんの手によってきれいに清掃され、道行く人たちに喜ばれています。

この道路は、同地区の人たちが外へ出かけるときなどに、欠かすことのできない重要な道路となっています。以前は道幅も狭く、自動車の通行にも、いろいろと支障がありました。そのため、四十八



黙々と道路の手入れをする上川辺下老人クのお年寄り  
|| 神坂地内で

年から改良工事が始められ、幅員の立派な道路に生まれ変わりました。

しかし、このところ路上や道端にゴミや雑草が目につくようになりました。そこで、同老人クラブの会員の皆さんが「せっかくだから、道路ができたのだから、わしらの手できれいにしよう」と、この清掃奉仕を計画「年末の大掃除」となったものです。

当日は天気も悪く、お年寄りにはこたえる寒さの中にもかかわらず、朝早くから二十八人の会員が、手に手に草刈りガマなどを持って集合、刈り取った草や、拾い集めたゴミを一輪車で次々と運搬、数カ所にまとめて焼却し、一日がかりで約二キロにわた

る区間の道路の手入れを終えました。  
同老人クラブでは、このほかに

も、昨年春から毎月一回、同地区あかた  
県主神社の清掃を行うなど、活発な活動を続けています。

集まった資料や原稿を前に、編集の打ち合わせをする先生たち  
|| 上川辺小会議室で

# 社会科副読本を作成中

## 町内小中 川辺の歩みなど紹介 校の先生



「川辺の子供たちに、より深く郷土を知ってもらおう」と、

町内小中学校の先生たちが集まり川辺町の歴史や風俗をまとめた社会科副読本を作成してみえます。

この先生たちは、川辺小学校の天池先生を中心とした七人の「社会科副読本作成グループ」で、忙しい合間をぬって副読本の作成

に精を出してみえます。

これまで、社会科の授業といえ  
ば、全国的に統一された教科書を  
主体にして進められてきたため、  
子供たちが生まれ育った川辺町の  
歴史などについては、なかなか満  
足な授業をすることができません  
でした。そのため以前から、子供  
たちに町のことをよく知ってもら

うためのまとまった資料作成の必要が叫ばれており、この副読本の作成となったものです。  
美濃加茂教育事務所の後藤時男  
主事に指示をおおぎ、昨年五月から始められた作業は順調に進められ、現在原稿の清書段階に入っています。

始めた当初は、どのような内容にするか、まだ方針が決まっておらず「川辺町に関するものなら、どんな資料でも」と、日曜日や夏休みなどの休暇も返上して、あらゆる資料集めにかけ回って見えました。しかし、現在では「今後ほしい資料はこれとこれ」というところまで煮詰まってきたり、資料集めも大詰めにさしかかっています。

今必要な資料は、人力車、馬車など明治、大正時代の古い写真で「これらの写真があれば、ぜひ貸してほしい」と、町の皆さんにも呼びかけています。明治学級や町史編さん室などの団体もこれに協力、これまでもたくさん資料や原稿を同グループに提供しており、先生たちを喜ばせています。

この副読本は、小学校三、四年生を対象にしたもので、B五判、百三十ページからなり、今年四月に完成が予定されています。  
「作業を進めていくうちにだんだん欲が出て、もっといいものを作ろうと思うようになってきた」と、先生たちは一生懸命副読本作成に取り組んでみえます。

# 元気にペッタン

## 第2保育園でモチつき



かけ声に合わせて元気にモチをつく  
園児たち 第二保育園で

よいしょ、よいしょ。園児たちの元気なかけ声に合わせて次々とモチがつかれていきます。

昨年暮れ、第二保育園で、このごろではめったに見ることのできなくなった、キネとウスを使ってのモチつきが行われました。このキネとウスは、同保育園が園児の父兄から借りたもので、このようなモチつきは初の試み。

近ごろは、モチを作るのにほとんどの家庭が「電気モチつき機」を使っており、昔ながらのキネとウスによるモチつきは非常に珍らしいものとなっています。そのた

め園児の中には、これらの道具に実際にお目にかかったのは初めてという子もたくさんおり「ほくにやらせて」「私がつく」と、大変にぎやかなモチつきとなり、保母さんたちも園児をおとなしくさせるのに大わらわ。

八十四人の園児たちが交代でキネを力一杯振り上げ、汗だくになりながら二時間程かかって二ウスのモチをつき上げました。園児たちは、このモチにきな粉やしょう油をつけて早速試食、自分たちでついたモチに舌つづみを打っていました。

# わーい、サンタだ！

## 第一保育園でクリスマス

さる十二月二十四日、第一保育園でクリスマス会が行われ、サンタクロースのおじさんが百八十人の園児たちにプレゼントを手渡しました。

このサンタクロースは、町職員の馬場さんが変装したもので、毎年上米田保育園の園長児島護保さんに頼んでいましたが、今回は児島さんの都合が悪くなり、急ぎょ馬場さんがピンチヒッターに立つたものです。

真つ暗な部屋の中に、大きな袋を背負ったサンタが現れると子供たちは大喜び、大きな声で「サンタのおじさんこんにちは」とあいさつしていました。

サンタに化けた馬場さんは、以前同保育園の園長をしていたところから「子供たちにばれるといけない」と、めがねをかけるなど苦心されましたが、園児たちの「どうしてサンタがめがねをかけてるの」といったかわいい質問に答える



園児たちにプレゼントを手渡すサンタのおじさん

第一保育園で

るのに四苦八苦、それでもプレゼントのカルタを配り始めると、園児たちは質問もそっちのけで小さな手を伸ばし、このプレゼントを受け取っていました。

この後郵便局の職員からも「毎年労働感謝の日に、贈り物をしてくれてありがとう」という手紙とともに、ダンボール箱一杯のお菓子が届けられ、思いがけないプレゼントにみんな大喜び、楽しいクリスマス会となりました。

## 上米田小に天体望遠鏡を寄付

名古屋の牧田さん

先ごろ名古屋に住んでいる牧田規久夫さんが、上米田小学校へ天体望遠鏡を寄付されました。

牧田さんの長男は、同小学校へ通学していますが、牧田さん自身は、仕事の都合でめったに帰って来ることができません。そのため「子供が小学校でいろいろ世話になりっぱなしで」と、お礼にこの天体望遠鏡を寄付されたものです。

同小学校では、この立派な天体望遠鏡の寄付に大喜び、早速科学クラブの活動に利用するほか、毎年五年生が行っている合宿にも新たに天体観測を取り入れるなど、いろいろな方面で活用していきたいと話しています。

# グループ

《1》

町内には、同じ趣味を持った人たちが集まって結成しているグループがたくさんあり、それぞれの場で互いの親睦を深めるのに役立っています。そこで今月からこれらのグループを順次取り上げ、その活動状況を紹介していきたいと思えます。第一回の今月は、よりよい食生活を目指して活動する「食生活改善推進委員会」にスポットを当ててみました。

## よりよい食生活目指し活動



中部中調理室のガラス窓を開けると、中ではエプロン姿の奥さんたちが忙しそうに動き回って見えました。にぎやかな声が飛び交い、水蒸気がガラス窓を曇らせる部屋の中で、五、六人ずつのグループに分かれ、それぞれの調理台の上で手ぎわよく料理が作られています。ほらかな笑い声の中にも

真剣に料理に取り組むまなざしが印象的でした。

この奥さんたちは「健康はよりよい食事から」と、食生活の改善を目指して五十年四月に結成された「食生活改善推進委員会」（会長肥田幹子さん）の会員の皆さんです。

同会は、三年前に開講された栄養教室の修了生が集まってできたもので、現在会員は五十五人。加茂保健所の栄養士佐伯八重さんが会の顧問として時々相談のつてみえますが、ほとんどの活動は会員自身の手により進められ、講義なども、そのつど会員がテーマを決めて行っています。

塩分のとりすぎは心臓病、高血圧、じん臓病などを誘発し、糖分のとりすぎは糖尿病、また、たん白質の不足は発育不良、身体機能の不全を招くなど、食事と健康は密接なつながりを持っています。

そこで会では「量より質に重点をおいた食事作り」をモットーに「健康アップ」を図ろうと、前述のような調理実習や食生活に関する講義など、年八回程度の講習会を開催、「健康的な暮らしの設計」に役立てています。また毎年一回加茂郡七カ町村の同じ趣旨を持つ

### 食生活改善推進委員会

真剣なまなざしとして調理実習に取り組む会員の皆さん

|| 中部中調理室で

たグループが集まり意見交換をするなど、対外的な活動も活発に行われています。

### くらしの豆知識

#### 郵便物

▽：はがきの表は、面積の二分の一まで通信文が書けます。この範囲を超えると、配達時に五十円の不足料金をとられます。

▽：書き損じたり、汚したはがきは郵便局で新しいはがきと交換できます。手数料は三元。郵便書簡は六円。

▽：私製はがきは寸法が長さ十四・十五センチ、幅九・一・七センチ、重さ二・六グラムのものは二十円、これより大きくなると封書の料金になります。長さ二三・五センチ、幅十二センチ以下は五十円、長さ四十センチ、幅二十七センチ以下なら百円となります。

▽：通常料金に速達料金を足すと速達郵便になります。不可抗力の場合を除いて、速達便が普通便で出した場合より遅れて配達されたときは、速達料金を返してもらうことができます。ただし、差出人が差出し郵便局へ選付請求しなければなりません。

▽：料金不足の場合、受取り人が不足料金と手数料（二十円）を支払うことになるので十分注意しましょう。

# わたしたちの作品

黄昏に誰れが焚きしかうやし火の  
煙はい来て秋終る里 井戸 義勝  
破れたる土のうに秋の陽はさして  
翹休めいる赤きトノボは 神田 繁子  
日曜の雲低き大気ふるわせて  
脱穀機の音ただにひびける 若井 国光  
いつになくやさし言葉でつつみたき  
老父送る日のコスモスのゆれ 横山 寿子  
復旧の工事はいまだ秋草の  
すでに枯れて冬風吹く 山田 君子  
たそがれに脱穀終えて車ひく  
妻等手を振る機関士われに 紅谷 茂  
霜にやけ風に落ち敷く桑の葉の  
寄り添うもあり離るるもあり 佐合 耕一  
再びを職場の人となりし吾  
希望という字に日々を迎ふる 肥田 節子  
転動の息を送りて夫と吾  
会話なきまゝ稲こぎつつく 長瀬 宗子

○降り続く雪に埋れし梅古木  
春の息吹きへ始動の脈打つ 井戸 正二  
○屋根の雪降す父子の息白く  
厳しき冬の白川が郷 前島 政平  
○山茶花の花びら連ぎ孫たちは  
日溜りの庭にはしゃぎて居りぬ渡辺節夫  
○白き息吐きつつ走るマラソンの  
路へ雪覆う竹の垂れ居り 村瀬 雅一  
○遠きに住む孫の来たるに目覚むれば  
木枯し強く窓を打ちたる 井戸 孝子  
○永く逢わぬ友に賀状を長々と  
書きて曇りし眼鏡をふきぬ 前島 一代  
○古き佳きならわし子等は受けつぎて  
祖父の教えをそのまま生きぬ小島みき子  
○クリスマス近き市場に行き交える  
人充実の足とり持てり 林 靖子  
○普通車の免許証今朝手にすれば  
新らたな重み我身を伝いぬ 垣下 博子

## 人の川辺の四季を8ミに

矢島敏夫さん

(中川辺)

ふるさと川辺の四季の  
移り変わりを、8ミでと  
り続けている人がみえま  
す。

この人は中川辺の矢島  
敏夫さんで、みんなが見  
なれてしまった郷土を見  
直し、その美しさを再発  
見しようとして、四、五年程  
前からこの作業に取り組  
んでみえます。

休日などに町内各所を  
回って撮影したフィルム  
の編集から題字の製作、

ナレーションの吹き込み  
まで、すべて矢島さん自  
身が行ってみえますが、  
とても素人とは思えない  
できばえ。撮影はほとん  
ど完了し、あとは細部の  
手直しだけ。

「冬の日の撮影は手が  
こごえて……」と話す矢  
島さん。しかし「好きだ  
から続けられる」と8ミ  
関係の本がぎっしり並ん  
だ部屋で話してください  
ました。

### 健康のしおり

#### 上手な酒の飲み方

酒は飲み方によって、毒にも  
なれば薬にもなります。酒を飲  
むときの参考にしていたくださ  
め、上手な酒の飲み方につい  
て述べてみましょう。

① 飲み方四つのポイント  
V  
すき腹で飲むとアルコールの  
吸収が早くなります。

② 満腹時に飲むと、アルコー  
ルの吸収は遅れますが、食  
物とともに腸内に残っている  
アルコールが、たえず少  
しずつ吸収されるため、血  
中濃度が長時間持続される  
こととなります。

③ 最もよい方法は、食べなが  
ら飲むことです。こうす  
れば、酒と料理の両方を楽  
しみ、しかも肝臓の負担を  
軽くすることができます。

④ 濃い酒はうすめて  
アルコール度数の高い酒は、  
慢性胃炎や胃かいようを誘発し  
肝臓の抵抗力を減らします。ウ  
イスキー、ブランデー、ジン、  
ウォッカ、しょうちゆうなどを  
飲むときは、なるべくうすめて  
飲み、ストレートで飲むときは  
水を飲みながら飲むことをおす  
ます。

#### 食べながら飲むのが一番

本質的な治療は、体内の  
アルコールと、それが酸化  
して生じたアルデヒドを早  
く消失させることにあります。  
そのためには、果物、はちみつ  
や砂糖水をどしどしとること  
です。

また、安静にしているより、  
運動している状態の方が、アル  
コールの血中濃度が早く減少し  
ます。

③ 飲む時間を決める  
一日のうちで、一定時間だけ  
飲むように努力しないと、アル  
コールの慢性中毒におかされる  
危険があります。

④ 飲む量を決める  
まず、自分の適量を知ること  
が必要です。そしてその適量を  
守ることです。ある会社の  
調査結果によると、平均的  
な飲み過ぎ限界量は、日本  
酒でコップ五杯、ビールな  
ら六本、ウイスキーでグラ  
ス七杯となっています。

次に二日酔いの療法につ  
いて述べてみましょう。

二日酔いの朝は、迎え酒  
が頭に浮かぶと思えます。  
その効用として▽麻酔作用  
による苦痛の軽減▽心理的  
な効果――をあげることが  
できますが、根本的な治療  
にはなっていない。

町史編さん室だより



—その18—

律令(注一)

江戸時代の律令が下川辺、木下喜作氏方の古文書の中にあつたので、其の一部分を紹介する

跡式(注二)

一、家屋敷を親類へ譲渡するも、早速名義書替するが御定法である。思わぬ事から紛争する場合は公儀へ取上げる。

一、跡式の事で紛争の場合、遺言状に名主・五人組加判あれば其の通り跡式を申付ける。

一、重病の時一判の遺言状、又は書置は認め難い、血筋近い者へ申付ける。

一、身分軽い者、養娘を遊女奉公に出し、実家より異議を願出ても、養女の節の証文有無に拘らず取上げない。

但し娘格別難儀な取扱いは、養父・実父差別なく取調べる。一、父養子を取り、跡式に極めて

置いた場合、其実子の為と雖も跡式継がせない。

一、父跡式を極め置かなかつた時は其血筋近い者に相続させる。

一、跡式相続に、惣領をさし置外の忤へ跡式譲るとの遺言状は不法也。

但遺言状が確な場合は、有金は家督の忤七分、外の忤は三分、家財田畑は家督の者が相続。

一、遺言状の通家屋敷譲分けては跡式が断絶し、母は外へ嫁ぐ等を親類が申出るとも、忤も無くて相果た者の家財は母の為、其の心次第で、遺言状の通母にも跡式をわける。

一、当人相果て遺状もなく、跡式十円

おしらせ

町へ百万円を寄付

先ごろ亡くなられた前町議会議長長渡辺謙司氏の夫人、たがえさんから「教育振興に役立ててください」と、町へ百万円の寄付をいただきました。町では、統合小学校の図書関係費に充用したいと考えています。たがえさんのご厚意に深く感謝申し上げます。

ご協力ありがとうございました

ごさいました

昨年実施した共同募金及び歳末

助け合い運動は、皆さんの温かいご協力により、次のように多額の善意金が集まりました。厚くお礼申し上げます。

共同募金

- 上川辺 五万七千円、石神 三万五千五百円、中川辺 十一万二千四百五十円、西橋井 四万九千四百円、下川辺 三万五千五百円、鹿塩 二万四千八百円、下飯田 七千六百円、福島 二万四千円、比久見 五万四千二百円、下吉田 一万七千二百六十円、下麻生 五万五千四百円、計 四十六万八千

拾得金を社会

福祉に寄付

川辺小三年池田尚子さん(西橋井)から二千六十円の寄付をいただきました。このお金は、池田さんが拾って警察へ届け、落とし主がわからないまま期限切れとなつたものです。町では社会福祉事業に役立てたいと考えています。池

を親類等不法な紛争する時は跡式は公儀へ取上る。

一、智養子不縁に成つたと雖も縁断の証文、妻離別状も取交さず其の上双方他へ形付た上持参金の争をするは、双方不埒につき持参金は公儀へ取上る。

一、養父の在り方悪く、養子も穏かでない、実家へ帰る場合は、持参金は相対での話し合いで、裁許の要はない。

(注一) 律令 律は形法、令は行政法に相当、国家統治の基本法典

(注二) 跡式 被相続者の跡目 (加藤)

川辺ダム放水

のお知らせ

二月三日から二十一日まで、川辺ダム工事のため放水が行われます。期間中、河川は泥などで軟弱になり危険ですから立ち入らないようにしてください。えん堤橋上も危険につき通行止めとします。また、川で舟を使用されている人は水の動きに十分注意して、係留してください。

町税納期のお知らせ

二月は、昭和五十一年度固定資産税第四期分の納期です。お忘れのないよう納めてください。

おめでた おくやみ

(五十一年十二月中の届け出)

出生

ご成長をお祈りします

- 下麻生 西垣 友洋 健司 二男
上川辺 坪内 朋也 賢司 長男
石 神 白村 健司 庄平 長男
西橋井 田原 裕二 和夫 長男
下吉田 赤坂 和美 佑次 長女
比久見 神田 信仁 春夫 長男
福島 野中 英則 英次 三男

死亡

- 謹んでおくやみ申し上げます
上川辺 有本 さい 76歳
白村 英一 65歳
鹿塩 高橋 良司 15歳
比久見 土谷サカエ 76歳

今年最初の広報紙をお手元へお届けします。批判、批評がいただければ幸いです。

今月から広報「かわべ」の紙面を一新「グループ」「この人」欄を設け、皆さんの登場をお待ちしています。「こんなグループがある」「こんなことやっている人がある」。— そのような話があれば、役場企画室広報係まで連絡してください。

また、各地区での話題、投稿なども大歓迎、より一層皆さんに親しまれる広報紙にしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。